川西市生涯学習アカデミー
2026年度

講座案内

- いのちの星・地球を知ろう～地球と生命・46億年の共進化～
- 考古学から見た川西の原始・古代
- 化石でひもとく自然の記憶
- 近松門左衛門に親しむ

いのちの星
地球

考古学
かわにし

化石
自然の記憶

近松
に親しむ

申込みフォーム または 郵送で
随時受け付けます（先着順）

川西市役所 生涯学習部 生涯学習政策課
〒666-8501 川西市中央町12－1
電話　072-740-1244
（土・日曜日、祝日を除く 9:00～17:00 受付）

川西市公式ホームページ内、ページ番号検索「1019573」で検索

令和8(2026)年度 川西市生涯学習アカデミー

いのちの星・地球を知ろう～地球と生命・46 億年の共進化～

46億年前、地球はどのように生まれ、どのように「いのちの星」になったのでしょうか。本講座では、太陽系の誕生から現在に至るまで、地球環境と生命が互いに影響し合いながら歩んできた壮大な歴史をたどります。また植物や昆虫、動物に見られる不思議な仕組みを手がかりに、生命の進化の妙と、その背後にある自然の摂理に迫ります。私たち人間もまた、地球と生命の共進化の産物。自然科学の視点から、「いのち」について考えるきっかけになれば幸いです。

1 太陽系の誕生から地球環境ができるまで

6月 3日（水）
14：00 ～ 15：30

大阪大学　大学院理学研究科　教授　寺田　健太郎

今から46億年前、広く希薄な宇宙空間で太陽系が誕生しました。ほぼ同じ時期にほぼ同じ材料物質から惑星たちが誕生したにもかかわらず、生命を育む「海」をたたえた惑星は「地球」だけです。このような「地球」の個性は、いつ(when)、どのようにして(how)決定づけられたのでしょうか？　隕石や小惑星リュウグウ試料の最新の分析から明らかになってきた、太陽系の起源と初期進化の描像について紹介します。

2 生命とともに進化してきた地球

6月17日（水）
14：00 ～ 15：30

大阪大学　大学院理学研究科　教授　松尾　太郎

地球の表層環境は、約 40 億年前の生命誕生以来、生命の進化とともに大きく変化してきました。とくに光合成生物の出現は地球表層の酸化を促し、生物自身もその変化した環境へと適応してきました。本講義では、光合成生物の起源から現在に至る約 30 億年にわたる進化と、それに伴う地球環境の変遷を概観します。広大な時空間スケールで進んできた光合成生物と地球表層との相互作用が、どのように現在の多様で豊かな生態系へとつながったのかを考えます。

3 植物の驚くべき生命力

7月 1日（水）
14：00 ～ 15：30

大阪大学　大学院理学研究科　教授　近藤　侑貴

動物のように動き回ることのできない植物は、たえず変化する環境に対して適切に対応する能力を発達させてきました。本講座では、そのような植物がもつ環境への適応力と植物独自の高い再生力について概説します。

4 生物リズムの多様性と進化

7月15日（水）
14：00 ～ 15：30

大阪大学　大学院理学研究科　教授　志賀　向子

「生物リズム」というテーマを取り上げ、まずヒトを含めたあらゆる生物がもつ24時間を刻む「概日時計」のしくみについて紹介します。そして、種数やバイオマスにおいて地球上でもっとも繁栄を誇る昆虫が進化の過程で獲得した不思議な「二日リズム」の意味としくみについて考え、生物リズムの多様性について考えます。

5 季節を読む昆虫の脳

8月 5日（水）
14：00 ～ 15：30

大阪大学　大学院理学研究科　教授　志賀　向子

温帯地域に生息する動物や植物は過酷な季節がくる前に冬眠や休眠に入り、温暖な季節に成長し生殖活動を行います。このような季節適応を可能にするしくみの１つが光周性です。動物は脳内の概日時計を使って一日の日の長さを測り季節を予測します。昆虫の脳手術などを通して光周性に関わる脳のしくみを探る研究を紹介します。

6 動物が左右非対称になる仕組み

8月19日（水）
14：00 ～ 15：30

大阪大学　大学院理学研究科　教授　松野　健治

動物のからだは左右非対称であることが多いです。ヒトの心臓がからだの左側にあるのがその代表例です。近年、タンパク質に秘められた分子レベルの左右非対称性によって、からだの左右が決まることがわかってきました。しかも、その仕組みは一つではなく、動物によって違っています。この講演では、皆さんを、左右非対称の不思議な世界にお連れします。

7 生命の誕生は奇跡か

9月 2日（水）
14：00 ～ 15：30

元大阪大学　大学院理学研究科　准教授　久冨　修

単細胞の細菌から我々ヒトまで、地球上には多種多様な生命が存在しています。それら生命が行う複雑で巧妙な生命現象を観察すると、生命というものがとても神秘的な存在に思えてきます。生命は分子が集合して自然に誕生したのでしょうか、それとも何か神秘的な力が働いたのでしょうか。この講義では、地球上での生命の誕生について皆さんと考えていければと思います。

8 生物の進化と与えられた宿命

9月16日（水）
14：00 ～ 15：30

元大阪大学　大学院理学研究科　准教授　久冨　修

生物の細胞では、共通する分子が同じ働きをしていることが知られています。そのため、地球上の生命は同一の始原生命から進化したと考えられています。その課程で細胞を構成する分子（遺伝子やタンパク質）に、生じた変化について説明します。また、私たちの老化や寿命についても考えていきたいと思います。

アステ市民プラザで対面講座、清和台公民館、東谷公民館でライブ配信講座を行います。

会場	①アステ市民プラザ	阪急電鉄「川西能勢口駅」徒歩３分（アステ川西６階）
	②清和台公民館	阪急バス「清和台四丁目」下車すぐ
	③東谷公民館	能勢電鉄「山下駅」下車　南西へ徒歩約７分

考古学から見た川西の原始・古代

北摂山地から流れ出る猪名川の流域一帯は、峡谷を北上して日本海側へ抜ける南北ルートと平野部を横切る東西ルートの十字路にあたり、原始・古代から多くの人が住み、行き交い豊かな文化をはぐくんできました。地中に眠る遺跡の発掘調査から明らかになった事実を踏まえて、水稲農耕の開始から古代国家の誕生にいたる猪名川流域、川西市域の歴史を日本史の大きな動きの中で考えてみます。

1 川西市における遺跡調査の歴史

川西市職員　朝井　琢也

6月5日（金）
14：00 ～ 15：30

川西市内には、弥生時代の大規模集落である加茂遺跡や前方後円墳の勝福寺古墳、清和源氏武士団発祥の地を象徴する多田院、豊臣秀吉や徳川幕府の財政をささえた多田銀銅山など約40箇所の遺跡が広がっています。その中でも、加茂遺跡ではこれまでに320回を超す発掘調査を実施しています。本講座では、加茂遺跡を中心に川西市における遺跡調査の歩みをご紹介するとともに、国指定史跡加茂遺跡のこれからについて考えたいと思います。

2 史跡加茂遺跡と弥生時代社会

大阪大学　大学院人文学研究科　特任教授　　福永　伸哉

6月19日（金）
14：00 ～ 15：30

北部九州に水稲農耕が伝来してしばらくすると、大阪湾沿岸にも多くの農耕集落がつくられ、そのうちいくつかは、弥生時代の中頃には人口数百人を有する地域の拠点的集落に発展していきます。2000（平成 12）年に国の史跡に指定された川西市加茂遺跡は、大阪平野北部では屈指の拠点集落です。加茂遺跡の発掘調査成果を参考にしながら、集落・墳墓・祭祀という３つの面に注目して、弥生時代の社会のあり方を考えます。

3 邪馬台国時代に向かう猪名川流域

大阪大学　大学院人文学研究科　特任教授　　福永　伸哉

7月3日（金）
14：00 ～ 15：30

『魏志』倭人伝に「倭国乱れ、あい攻伐すること歴年」と記された２世紀後半は、列島の諸勢力が対抗する緊張の時代でした。この争乱状況は邪馬台国・卑弥呼が女王に共立されて終止符が打たれ、倭国の大きなまとまりが誕生することになります。弥生時代後期から終末期にかけて展開する地域関係の中で、猪名川流域勢力はどのような立ち位置にいたのでしょうか。日本古代国家形成の激動期を、猪名川流域を含む摂津地域から展望します。

4 長尾山丘陵における前期古墳の調査

大阪大学　大学院人文学研究科　特任教授　　福永　伸哉

7月17日（金）
14：00 ～ 15：30

３世紀中頃の古墳の出現は、畿内地域の王を中心とするヤマト政権の成立を示す考古学的事象と考えられます。猪名川流域では、この20年間の発掘調査によって川西市から宝塚市にまたがる長尾山丘陵において、初期の有力古墳がさかんに築造されていることが明らかになりました。なぜこの地域とヤマト政権の連携が早くから生まれたのでしょうか。発掘調査の成果を紹介しながら、初期ヤマト政権期における猪名川流域の重要性を解説します。

5 埴輪から見たヤマト政権と猪名川流域

8月7日（金）
14：00 ～ 15：30

大阪大学　大学院人文学研究科　助教　　木村　理

古墳の外表にならべられた埴輪は、古墳の築造時期や地域間関係を明らかにする手がかりとなります。近年、猪名川の中流域に位置する長尾山丘陵でも、埴輪を有する前期古墳が複数存在することがわかってきました。ほかの地域と比べても、このような状況は特殊といえます。本講座では、各古墳で出土した埴輪の時期や系譜を分析し、眼下の平野部を舞台に活躍した首長たちの、地域内での関係性や、ヤマト政権との緊密性について検討します。

6 古墳時代の渡来人と猪名川流域

8月21日（金）
14：00 ～ 15：30

大阪大学　大学院人文学研究科　准教授　　中久保辰夫

「倭の五王」が活躍した西暦５世紀という時期は、政治、文化、経済など、さまざまな面で、海域を越えた異文化交流が盛んになりました。この講座では、東アジア各地を駆け巡った渡来人という人々に着目して、川西市の栄根遺跡など、渡来人が住んだと考えられる遺跡について紹介します。そして、なぜ、どこから渡来人はやってきて、猪名川流域、川西市域の歴史に何を遺したのか、日韓各地での最新発掘調査成果とともに解説します。

7 勝福寺古墳と継体大王

9月4日（金）
14：00 ～ 15：30

大阪大学　大学院人文学研究科　准教授　　中久保辰夫

西暦６世紀前半に活躍した継体大王は、王位継承や出自などの不明瞭さより「謎の大王」とされてきましたが、近年ではその治世が古代国家形成に果たした役割が少なくないことがわかってきました。この講座では、こうした研究の流れをつくるきっかけとなった勝福寺古墳の発掘調査から説き起こし、継体大王の墓であることが確実視されている高槻市今城塚古墳出土遺物の最新成果も含めて、猪名川流域の勢力と継体大王のかかわりについて考えます。

8 猪名川流域の古代氏族

9月18日（金）
14：00 ～ 15：30

大阪大学　大学院人文学研究科　教授　　高橋　照彦

文献史料によれば、古代の猪名川流域には渡来系氏族をはじめ、さまざまな有力氏族が勢力を持っていたことが知られています。なかには大王にかかわるような王族も含まれていた可能性があります。そのような氏族の分布に対応するように、猪名川流域の各所に有力な古墳のまとまりを確認できます。古墳時代中期以降の古墳群の被葬者がどのような勢力であったかについて、文献史料と考古資料とを照らし合わせて探ってみることにします。

アステ市民プラザで対面講座、清和台公民館、東谷公民館でライブ配信講座を行います。

会場	①アステ市民プラザ	阪急電鉄「川西能勢口駅」徒歩３分（アステ川西６階）
	②清和台公民館	阪急バス「清和台四丁目」下車すぐ
	③東谷公民館	能勢電鉄「山下駅」下車　南西へ徒歩約７分

化石でひもとく自然の記憶

骨格や殻、足跡など、地層に保存された生物の痕跡を「化石」と呼びます。地質学において化石は、地球に誕生し、進化してきた生命の道筋を辿ることができる魅力的な研究対象の一つです。

この講座では、化石の発掘調査の歴史やそこから得られた最新の研究成果、博物館での展示製作にまつわるエピソードなどを紹介します。絶滅したアンモナイトや巨大な恐竜から、現在も地球上に繁栄する鳥や植物、プランクトンまで、多様な化石を題材として扱います。

1 微化石の世界 ―地球科学を切り開いてきた顕微鏡サイズの化石たち―

10月7日（水） 10：00 ～ 11：30

兵庫県立大学　自然・環境科学研究所　准教授　　廣瀬　孝太郎

化石が形成される過程や研究の歴史など、化石についての概要をお話しします。とくに、珪藻や有孔虫、貝形虫など、顕微鏡サイズのプランクトンの殻や骨格が主な起源となる「微化石」に焦点をあてます。微化石は、地層の年代や過去の環境の復元など、地球科学の発展に大きな役割を果たしてきました。微化石を用いた第四紀の氷期・間氷期サイクルの解析などの研究事例についても紹介します。

2 化石からひもとくアンモナイトの生態・多様性・絶滅

10月21日（水） 10：00 ～ 11：30

兵庫県立人と自然の博物館　研究員　　生野　賢司

アンモナイトは、かつて３億５千万年近くもの長い期間にわたって海洋で生息していた生物です。今回は、化石でしか見ることのできないアンモナイトがどのような生態の生物であったのか、どのような種類が存在したのか、何が絶滅の原因と考えられているのか、兵庫県からはどのような種類の化石が産出しているのか、などについて研究例を交えながらわかりやすく紹介します。

3 兵庫県の地質 ―化石産地を中心とした地質の分布と形成史―

11月4日（水） 10：00 ～ 11：30

兵庫県立人と自然の博物館　研究員　　三宅　優佳

兵庫県には、火山活動に由来する岩石や地下深部で変成した岩石、河川や海など多様な環境で堆積した地層など、様々な成因をもつ地質が分布しています。これらの中には、アンモナイトや恐竜、哺乳類、植物などの化石を多産する地域があり、地質・古生物学の研究において重要な場となってきました。本講座では、県内の化石産地を中心に、兵庫県の大地がどのように形成されたかについてお話しします。

4 化石の宝庫！篠山層群 ―調査・研究の概要―

11月18日（水） 10：00 ～ 11：30

兵庫県立大学　自然・環境科学研究所　教授　　池田　忠広

兵庫県丹波市・丹波篠山市に分布する下部白亜系篠山層群大山下層（約１億１千万年前）からは、丹波竜（タンバティタニス・アミキティアエ）をはじめとして、小型哺乳類やカエル類、トカゲ類など多様な脊椎動物化石が多数産出しています。近年では、ヒプノベナトール、ササヤマグノームスと言った新たな恐竜類が報告されました。本講義では、恐竜類について概説するとともに、これまでに実施してきた調査研究について、最新の成果を交えてその概要を紹介します。

5 鳥類の起源と進化　ー繁栄、絶滅、そして復興ー

12月 2日（水）

兵庫県立大学　自然・環境科学研究所　准教授　　田中　公教　　10：00 ～ 11：30

鳥類は私たちに最も身近な動物のひとつです。鳥類の驚異的な身体機能や生理は、およそ2億5000万年に及ぶ進化によって培われてきました。本講義では、古生代・中生代・新生代を通じて展開された脊椎動物の進化のあゆみをたどりながら、哺乳類のはるか頭上を飛翔する鳥類が如何にして出現し、世界中で繁栄し、絶滅を乗り越え、今日の多様性を築き上げたのか、その起源と進化史を概観します。

6 神戸層群の植物化石と動物化石

12月16日（水）

兵庫県立人と自然の博物館　主任研究員　　半田　久美子　　10：00 ～ 11：30

神戸層群は美しい葉の化石が産出することで知られており、メタセコイアやフウといった日本から絶滅した植物や、今も日本にあるブナやケヤキの仲間の化石が見つかっています。博物館に収蔵されている8000点を超える化石から推定される、およそ3800万年前にあった森の姿を紹介します。また神戸層群から産出した哺乳類化石であるサンダタンジュウやザイサンアミノドンについても解説します。

7 博物館に標本が展示されるまで　ーレプリカ制作の最前線ー

1月20日（水）

兵庫県立大学　自然･環境科学研究所　特任助教　　長野　あかね　　10：00 ～ 11：30

博物館展示に至る標本制作の過程には、多くの準備と工夫が重ねられています。本講座では、展示標本が完成するまでの流れを紹介し、県立人と自然の博物館で取り組んでいる３Ｄスキャナと３Ｄプリンタを用いた最新のレプリカ制作手法を解説します。さらに、淡路島に打ちあがったスナメリの骨格標本を例に、骨格制作から展示に至る実際の過程を示し、レプリカが展示現場でどのように活用されているのかを具体的に紹介します。

8 博物館ができるまで　ーたんば恐竜博物館のリニューアル事業ー

2月 3日（水）

たんば恐竜博物館　教育普及専門員　　稲葉　勇人　　10：00 ～ 11：30

2025年7月12日、「たんば恐竜博物館」がリニューアルオープンしました。前身の「丹波竜化石工房」では、丹波市内産の恐竜を中心に展示していましたが、地層や生物進化を教える学校教育への活用には課題がありました。そこでリニューアルでは、丹波の地質・岩石や、脊椎動物の進化に関する展示を大幅に拡充しました。学校教育にも活用できつつ、一般の方も楽しみながら学べることを目指した展示づくりについて紹介します。

アステ市民プラザで対面講座、明峰公民館、北陵公民館でライブ配信講座を行います。

会場	①アステ市民プラザ	阪急電鉄「川西能勢口駅」徒歩３分（アステ川西６階）
	②明峰公民館	阪急バス「明峰小学校前」下車　徒歩約３分
	③北陵公民館	能勢電鉄「日生中央駅」下車　東へ徒歩約８分

近松門左衛門に親しむ

近松門左衛門は、江戸時代を代表する劇作家で、人形浄瑠璃（現在の文楽）や歌舞伎の発展に大きく貢献した人物です。園田学園大学は「地域に根ざした大学づくり」を進め、地域資源である近松の研究を推進するという目的で1989年に近松門左衛門を中心とする近世の演劇・芸能の研究に特化した「近松研究所」を設立しました。この講座では、園田学園大学近松研究所の協力のもと、近松門左衛門の人となりと作品についてわかりやすく解説していきます。

1 近松と尼崎

11月18日（水）
14：00 ～ 15：30

園田学園大学　教授　/　近松研究所　所長　大江　篤

尼崎市久々知にある広済寺は、近松門左衛門夫妻の墓がある菩提寺で、通称近松寺と呼ばれています。このことから、尼崎市では、1986年の市制70周年を契機に「近松」を文化振興のシンボルと位置づけ、「近松のまち・あまがさき」というまちづくりを進めてきました。福井出身で大坂で活躍した近松門左衛門の墓がなぜ尼崎市にあるのでしょうか。近松と尼崎について知るとともに、近松門左衛門のいまとこれからを考えます。

2 近松と義太夫

12月2日（水）
14：00 ～ 15：30

園田学園大学　講師 / 近松研究所　研究員　坂本　美加

浄瑠璃、歌舞伎の世界に確固たる地位を確立し、後に「作者の氏神」といわれた近松門左衛門。貞享元年（1684）に大坂道頓堀に竹本座を創設した「義太夫節」の創始者竹本義太夫。人形浄瑠璃の発展に多大な影響を与えた近松と義太夫について、近松の『出世景清（しゅっせかげきよ）』などの作品を手がかりにみていきます。

3 近松の作品世界①ー世話物ー

12月16日（水）
14：00 ～ 15：30

園田学園大学　講師 / 近松研究所　研究員　坂本　美加

近松は空前の大ヒットで代表作となる『曽根崎心中』（1703年）から『心中宵庚申（しんじゅうよいごうしん）』（1722年）まで、生涯に24編の世話物を世に出しました。世話物の嚆矢となる『曽根崎心中』はどのように誕生し、どのように享受されたのでしょうか。その後の作品の深化とは。近松の世話物の世界をみていきます。

4 近松の作品世界②ー時代物ー

1月13日（水）
14：00 ～ 15：30

園田学園大学　講師 / 近松研究所　研究員　坂本　美加

中世の軍記物語である『平家物語』は、近松の数多くの作品の素材となっています。近松の『平家物語』利用の集大成ともいえる『平家女護島（へいけにょごのしま）』（1719年）の二段目（通称「俊寛」）を中心に、ジャンルを超えた先行作品と近松が作り上げた時代物の世界についてみていきます。

5 近松と西鶴と海音

2月10日（水）
14：00 ～ 15：30

園田学園大学　講師 / 近松研究所　研究員　坂本　美加

近松が人形浄瑠璃や歌舞伎の作者として活躍した時代は、上方（かみがた）の町人文化が花開いた時代でもありました。近松と同時代に生きた浮世草子作者の井原西鶴（いはらさいかく）、竹本座のライバルである豊竹座で活躍した浄瑠璃作者紀海音（きのかいおん）など、近松をとりまく人々とその作品から近松の生きた時代についてみていきます。

6 近松と怪異

2月24日（水）
14：00 ～ 15：30

園田学園大学　教授　/　近松研究所　所長　大江　篤

江戸時代は怪異・怪談が娯楽として、大衆文化として享受され、あまねく消費された時代でした。近松門左衛門の作品にも「傾城反魂香」「百夜小町」のように幽霊が登場するものがあります。怪異は、近松門左衛門の芸術論「虚実皮膜論」にも関係します。近松は現実と虚構の境界を巧みに操作し、観客に「本当にあったかもしれない」と思わせる演出を重視しました。作品に描かれる幽霊、描かれた幽霊などから江戸時代の怪異文化を考えます。

アステ市民プラザで対面講座、明峰公民館、北陵公民館でライブ配信講座を行います。

会場	①アステ市民プラザ	阪急電鉄「川西能勢口駅」徒歩３分（アステ川西６階）
	②明峰公民館	阪急バス「明峰小学校前」下車　徒歩約３分
	③北陵公民館	能勢電鉄「日生中央駅」下車　東へ徒歩約８分

現地学習『近松門左衛門ゆかりの地めぐり』

参加対象：『近松門左衛門に親しむ』の受講生（任意）
時　　期：講座期間中（一日）
場　　所：広済寺（近松門左衛門の墓ほか）、
　　近松記念館、伊佐具神社
費　　用：近松記念館入館料 200 円、交通費は自己負担。

※詳細については、開講後にお知らせいたします。

募集要項　令和 8(2026)年度川西市生涯学習アカデミー

	コース・講座名	開講	会場（定員）　費用
A	いのちの星・地球を知ろう ～地球と生命・46 億年の共進化～ 全 8 回	6/3(水) 14:00	【対面】 アステ市民プラザ(70)　8,000 円 【ライブ配信】 清和台公民館(16)　4,000 円 東谷公民館(22)　4,000 円
B	考古学から見た川西の原始・古代 全 8 回	6/5(金) 14:00	
C	化石でひもとく自然の記憶 全 8 回	10/7(水) 10:00	【対面】 アステ市民プラザ(70)　8,000 円 【ライブ配信】 明峰公民館(20)　4,000 円 北陵公民館(22)　4,000 円
D	近松門左衛門に親しむ 全 6 回	11/18(水) 14:00	【対面】 アステ市民プラザ(70)　6,000 円 【ライブ配信】 明峰公民館(20)　3,000 円 北陵公民館(22)　3,000 円

◆受講料　対面 1 回あたり 1,000 円　ライブ配信 1 回あたり 500 円

◆同意事項

・ライブ配信は通信状態によって、音声や映像が途切れることがあります。

・対象は中学生を除く15歳以上の市民。

・C，D コースから、対面での受講を複数申込みできます。

・定員を超過したときは、抽選します。

・令和7(2025)年度生涯学習アカデミーを対面で受講した方についても、C，D コースは対面での受講申込みができます。

申込み　随時受付けます　(先着順)

二次元コードから　申込みフォーム、または、　郵　送　申込書にて

【宛先】
川西市役所　生涯学習部 生涯学習政策課
〒666-8501 川西市中央町１２－１

❖受講に伴う 400 字レポートおよびアンケートの提出について

1．400字レポートの提出が必要です。

・各講座の 2 回目にレポート用紙を配付します。

・提出回数は、特に制限しません。

2．アンケートにご協力ください。

・各講座の 6 回目にアンケート用紙を配付します。

◆その他

・講師の職名は、令和 8(2026)年 2 月現在の情報です。

・受講当日の受付は各講座開始 30 分前から行います。

・受講料は講座の初回に各館で集金します。

・講座の録音、録画、撮影は固く禁じます。また、資料の複写、転用は認められません。

・生涯学習政策課が講座中に撮影した写真は、市の広報などで使用することがあります。

・配信不良など主催側の事情で講座を実施できなかった回は、後日返金します。
（対面 1 回 1,000 円、ライブ配信 1 回 500 円）

◆講座日の変更について

・気象警報が発表された時、アステ市民プラザに避難所が開設された時など、諸事情により講座を中止したり日程を変更したりすることがあります。

・川西市に気象警報・特別警報発表中の場合、実施しません。講座開始の 2 時間前に各自テレビなどで情報確認をお願いします。

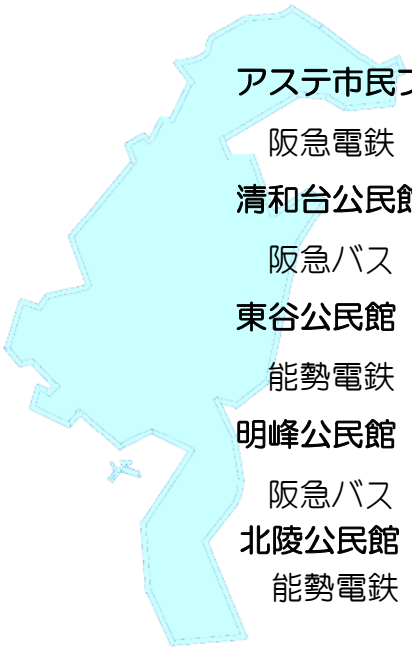
（1）午前 8 時の時点で気象警報が発表中の場合、午前の講座は中止します。

（2）正午の時点で気象警報が発表中の場合、午後の講座は中止します。

川西市生涯学習アカデミー

生涯学習のきっかけづくりとして、大学の講座のような専門的な内容を1コース8回程度で実施します。
生涯学習とは、全ての世代が楽しく学ぶこと、スポーツを通して健康促進すること、芸術を通して心の豊かさを育むこと、市の文化を継承していくことなど、これら全てを指します。

会　場



アステ市民プラザ　【対面講座】
阪急電鉄「川西能勢口駅」徒歩3分（アステ川西6階）

清和台公民館【ライブ配信講座】
阪急バス「清和台四丁目」下車すぐ

東谷公民館　【ライブ配信講座】
能勢電鉄「山下駅」下車　南西へ徒歩約7分

明峰公民館　【ライブ配信講座】
阪急バス「明峰小学校前」下車　徒歩約3分

北陵公民館　【ライブ配信講座】
能勢電鉄「日生中央駅」下車　東へ徒歩約8分